

平成 28年度学校評価(1学期末評価・中間評価)

学校名 大分県立日田支援学校

学校教育目標	中期目標	重点目標
児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導や支援を行い、その可能性を最大限に高め、心豊かでたくましく、みんなとともに自分らしく生きる力を養い、自立と社会参加を目指す人間を育成する。	①卒業後の姿を見据えた、小学部・中学部・高等部での一貫教育の徹底・推進 ②障がいの重複化・多様化に的確に対応するため、個々の専門性の向上と組織力の強化 ③県西部地域におけるセンター的機能の強化と、家庭・地域との協育・協働の推進及び安心・安全な学校作り	(1)キャリア発達を踏まえた一貫教育を推進 (2)OJTによる授業改善と組織力の強化2(教育の質の向上) (3)保護者・地域・関連機関との連携強化と安心・安全な学校づくり

PL:プロジェクトリーダー、SL:サブリーダー

重点目標	達成(成果)指標	重点的取組	取組指標	PL SL	検証結果		学校関係者評価	
					評価	重点的取り組み・取り組み指標の実践 今後の改善策		
(1)キャリア発達を踏まえた一貫教育を推進 ○児童生徒一人一人の取り組みを課題解決に向け準備した、キャリア発達に応じた指導内容を計画的に指導することにより、卒業後を見据えた一貫教育を推進する。	①新たな小学部1年生と4年生、中学部1年生、高等部1年生について、PATHの技法を用いた面談を実施し、キャリア発達を踏まえた目標設定目標の修正・変更による教育を推進(全対象児童生徒への実施率100%) ②将来を見据えて設定した目標を達成するための個々の課題を、保護者との合意形成の下、個別の指導計画に位置付け、一貫した教育の提供を実現(計画の達成度80%以上)	・新たな該当学年の児童生徒にPATHの技法を用いた支援者ミーティングを実施する。 ・これまで実施した児童生徒の今取り組むべき指導内容(計画)について見直しを行い指導にあたる。 ・PATH技法の取得及び向上のため、教職員を対象とした研修会を実施。	・対象学年(小1、小4、中1、高1)に対し、PATHの技法を用いた懇談会(支援者ミーティングも含む)を全員実施。対象外の学年については、夏季休業中の面談などを利用して、PATHの話し合いの結果を見直し修正する。 ・PATHの技法を用いた話し合いや、見直しなども含めた話し合いのための研修会を実施。	PL: 研究 SL: 教務・進路	3	・今年度も対象学年に対し、PATHの技法を用いた懇談会の実施について保護者へ依頼を行った。夏季休業中に実施する。 ・学校PATHや新任者等を対象にした研修会などを実施し、PATH技法を用いた話し合いについて教職員の理解を求めた。	・PATH技法を用いた話し合いを実施した結果から出てきた各児童生徒の課題について個別の指導計画への位置づけの方法を明確にすることで指導内容(計画)への反映を行う。	/
		・キャリア発達の見点を取り入れた内容を個別の指導計画に位置付けるとともに各学期末のPTA等で保護者に説明することで連携を図る。 ・指導計画に位置付けられた内容を基に、具体的な目標、支援、評価を明確にした授業を実施する。学期ごとに達成度を確認し、必要に応じて計画を修正する。	・4月末の家庭訪問で今学期の「個別の指導計画」の内容を提示し、保護者との共通理解を図る。また、各学期末のPTAで、評価について説明し、次学期の指導の方向性を示し、必要に応じて計画を修正する。 ・一人一人の目標を達成する上で求められる「合理的配慮」については、保護者との合意形成の下、「個別の指導計画」に関連する項目についての番号を明記して説明する。	PL: 教務 SL: 小中高	3	・個別の指導計画の書式や記入方法について、職員会議、新任者オリエンテーション、学部会で教務担当が説明することで形式の統一を図るようになった。 ・4月末の家庭訪問で保護者との共通理解をもとに、1学期の重点指導項目を個別の指導計画に明記した。 ・目標を達成する上で、保護者から求められる合理的配慮については、項目についての番号を明記し説明する。また、周知のため「個別の指導計画ファイル」の表紙の裏面に観点別一覧表を貼付した。	・個別の指導計画の1学期の重点指導項目についての取り組みと評価の説明を行い、2学期以降の方向性を保護者と確認し、個別の指導計画の加筆、修正を行う。 ・小1、小4についてはPATHの技法を用いた面談を受けて、その内容を個別の指導計画に反映する。その際、指導内容表を用いて指導内容の見直しや修正を行い指導の方向性を確認する。	
		・キャリア教育に関する情報紙「進路だより」の発行や授業参観週間、PTA、保護者のための進路学習会などを通じて毎月情報提供を行う。	・保護者に向けて「進路だより」を年間5回以上発行する。保護者対象の進路学習会を学期に1回以上実施する。また、学部に応じて必要とされる内容が異なるため、学部ごとの学習会などニーズに合った内容を検討し、参加しやすい方法を考える。 ・教職員1人ずつの進路に関する知識を増やすために、教職員向けの進路研修会(年3回)を実施し、情報提供を心がける。	PL: 進路 SL: 小中高	3	・進路部の職員で記事を分担し、発行した。6月に1回目を発行し、8月に2回目を発行予定である。保護者対象の学習会では、玖珠町におけるダイレクトBの制度や手続きについて取り扱った。ダイレクトBについては、関心のある保護者は理解できたようであったが、そうでない保護者には難しいようだった。指定相談支援事業所について、教職員向けの研修を行った。指定相談支援事業所は、児童生徒と関わりの深い関係機関であることから、全教職員に理解してもらう必要があった。短い時間ではあったが、おぼつかないことは伝えることができた。	進路だよりについては、今後も職員で業務を分担し、スムーズな発行に努めていきたい。保護者対象の学習会については、保護者の研修ニーズを把握し、内容や研修形態を考えていく必要がある。教職員向けの研修については、福祉制度や年金制度など進路に関する情報を提供できるようにしていきたい。	
(2)OJTによる授業改善と組織力の強化2(教育の質の向上) ○支援者ミーティングにより設定した目標を達成するための課題解決学習について、OJTにより効果的な授業改善に取り組み、教育の質を高め組織的な授業力の向上を目指す。	①研究グループによる授業づくりミーティングを実施し、より効果的な指導等について各グループでOJTを実施(子どもの「考える力」・「自己決定する力」・「コミュニケーションする力」の育成を意識して) ②各学期に授業参観週間を設け、改善された授業を保護者等に公開する(満足度80%以上) ③一人一教材・教具の工夫改善の取組による授業改善(全教職員)	・授業改善の取り組みを学校研究に位置づけ、各グループでOJTによる授業改善の取り組みを行う。	・研究グループによる「授業づくりミーティング」を実施。各グループで授業づくりを行った授業を実施し、反省会などを開催することでOJTによる授業改善を行う。	PL: 研究 SL: 教務 小中高	3	・各学部の研究において授業作りミーティングを実際に行った。年間指導計画等を参考にしながら実際に計画されている授業で行うことで今後の活用につながる。また、話し合いの中で、授業展開や教材教具に対する話し合いも行うことができた。	・2学期以降は授業に基づく授業づくりミーティングを実施し、各児童生徒の授業における評価の見点を明確にすることで、授業での到達点を定め、授業改善につなげていく。また、その際はまずミーティングのグループ内で互見していきようにする。	/
		・各学期に授業参観週間を設定し、めあてを分かりやすく示して改善した授業を展開する。参観していただいた保護者等にアンケートを記入してもらい、結果を職員に還元し、授業改善を行う。	・アンケートの回収率を参観者の50%をめざす。アンケートを封筒に入れ、持ち帰って記入できるようにするなどの工夫を検討する。	PL: 進路 SL: 教務・研究	3	・5月30日から6月3日まで第1回目の授業参観週間を行い、参観者数は64人(延べ)であった。ホームページや案内チラシの配布や校内ポスター掲示を早めに取り組んだことで、保護者、放課後利用施設の職員など昨年平均34名から大幅に参加者が増えた。また、回収したアンケートは23枚であり、回収率は35.9パーセントであったが、満足度は91パーセントであり今後、回収率を上げることで、授業改善に向けた意見を集約していきたい。	・アンケートの回収率は35.9%と提出は少ない状況にあるため、回収率アップに向けた取り組みを行いたい。短時間に記入できる書式の検討、その場で記入ができるバインダーの準備、アンケートの協力をアピールするポスター掲示など、工夫していきたい。	
		・授業力向上のため、特別支援学校教員としての専門性の向上を図るとともに教材・教具の工夫改善を行う。	・アセスメント研修、校内リソース活用研修など校内の人材を活用した研修会の実施。 ・外部講師を招聘しての研修会では、校内のニーズを探り講師の選定を行う。 ・教材・教具展では早期からの呼びかけにより出展数のアップと、作成の意図やねらいが明確に伝わるような工夫・場の設定を行う(年2回実施)。	PL: 研究 SL: 小中高	3	・アセスメント研修、校内リソース課長研修は校内のニーズや校内での人的資源を活用して計画実施することができた。 ・外部講師の招聘については、校内のニーズのみならず地域のニーズなどを考え講師の選定を行った。 ・教材教具展では、授業日ということもあり出品数が少なかったが、昨年度の教材教具シートをデータとして展示することができた。	・外部講師の招聘に当たり、校内でアンケートを実施したが回数率が少なかった。情報提供などを行っていく必要がある。 ・教材教具点では、今後もシートをデータとして残していくようにする。また、展示に向けて計画的な呼びかけを行っていく。	
(3)保護者・地域・関連機関との連携強化と安心・安全な学校づくり ○関連機関と連携しながら、保護者・地域・交流先等に向け情報を発信する。また、地域交流を活用した教育実践を展開し、地域に根ざした学校作りを推進する。	①月1回以上の情報発信及び情報共有と地域のリソースを活用した授業実践(学部年1回) ②県西部(日田・玖珠・九重)地区の特別支援教育センター的役割を担う人材の育成 ③災害等を想定した教職員の防災研修の実施と児童生徒の通学路の防災避難マップ作成	・ホームページや情報掲示板等を活用して情報発信する。 ・地域のリソース(人材等)を活用した教育活動を行う。	・各学部のHP担当者を中心に情報の発信を積極的にこなす。また、HPをカラー印刷し、月1回、公民館に掲示を依頼する。 ・「梨の学習」「もちつき交流」「平和学習」等の行事・学習に地域の方々の協力を依頼する。 ・西有田まつりでの販売や駅伝の参加を通じて、地域との交流を深める。	PL: 教務 SL: 小中高	3	・教務(情報)担当が中心となり、各学部のHP担当者、分掌主任にHP原稿作成(更新)依頼をし、学校行事、学部行事、学習の様子などについての情報発信を行った。 ・高等部チャレンジ学習では、地域の梨園を経営する方の指導の下梨の栽培(受粉、袋かけ)の体験学習を行った。	・ホームページの定期的な更新を行うとともに、情報掲示板の活用、「日田支援学校通信」を通して地域への情報発信を引き続き行っていく。 ・高等部チャレンジ学習では、引き続き、梨の栽培(収穫、枝ひろい)の体験学習で、地域の人材を活用した教育活動を行っていく。 ・西有田祭りでの販売学習や祭りへの参加を通して地域との交流を深める。	/
		・校内の教員の心理アセスメントの技量を高める。 ・複数名での巡回相談を実施し、巡回相談員としての技量を高めることでセンター的役割を担わせる。 ・「交流及び共同学習」について、効果が高まるように計画を密にする。	・本校の児童生徒に、より広く使えるアセスメントを含んだ研修を取り入れ、校内の教員の心理アセスメントの技量を高める。 ・複数名での巡回相談を実施することを継続することと、支援の振り返りシートを集積して、支援の事例集を作成することで、センター的役割を果たす。 ・「交流及び共同学習」においては、交流校と研修会や情報交換等を行い、共通理解を図る。交流ごとに打ち合わせを行い、学校間交流では小中高ともに年3回の交流を行う。	PL: ラポール SL: 研究	3	・4月当初にアセスメント全般について研修を行った。 ・1学期中は複数名の巡回相談ができなかった。相談件数も増え、コーディネーターの負担増である。 ・1学期は小・中・高ともに交流及び共同学習を行うことができた。研修会を計画したり、相手校で授業を行ったり、生徒どうしの打ち合わせを行ったりして、共通理解を図ることができた。	・実施した研修のアンケートを基に、2回目の研修の計画を立て、実施する予定。 ・夏季休業中は、複数名の巡回相談を計画している。また2学期以降も、各学部に協力をお願いして、複数名での巡回相談を実施する。 ・支援の振り返りシートを、継続して集積していく。 ・2学期も交流及び共同学習を計画する。その前に打ち合わせをして共通理解を図る。	
		・外部講師を招聘して安全・安心な学校づくりに生かす。 ・児童生徒通学時の防災避難マップを作成するとともに、関係機関への協力依頼を行う。	・外部講師による防災に関する研修を実施する。 ・スクールバスを中心とした通学路における避難マップを作成する。	PL: 生徒指導 SL: 小中高	2	・全生徒の通学方法や居住地の避難場所などを記入した緊急時引き渡しカードを作成した。8月1日に日田消防署から、東日本地震の際緊急援助隊で支援した消防士を講師として招聘し、教職員向けに災害時の対応について研修を行う。また、スクールバスの登下校時の避難マップ作成に向け、夏季休業中に日田玖珠九重のハザードマップを使い、スクールバスの登下校時の避難マップを作成する。	・2学期以降、保護者から情報提供や各市町村への確認により、居住地域の危険場所を把握する。備蓄食の提案と保護者への引き渡し訓練をPTAにあわせて実施する。3学期には、備蓄食体験を計画するなど、トータル的な取り組みを行う予定である。	